九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

第1回九州地区国立大学間合宿共同授業報告書

https://doi.org/10.15017/21061

出版情報：九州地区大学一般教育研究協議会議事録. 1, 1977-05-31. 九州大学教養部
バージョン：
権利関係：

はしがき

ここに、第1回九州地区国立大学間合宿共同授業（共同授業）報告書をまとめました。こういう報告書を作ることはやや大げさだとは思いましたが、全国ではじめての試みではあったし、成果も欠陥もこうした報告書としてありのままにのべておくことによって、次のステップにもなるし、未経験の向きには説明にも役立つと考えたからです。

経過の中にものべておきましたが、共同授業の試行を決意してから実行に至るまで、はじめてのことを、六つの大学を相手に取りまとめるには余りにもゆとりがなく、果してうまくいくかどうかと大変心配で、綱渡りする思いでした。しかし幸いにも、関係各方面の格段の御力添えによって、ともかく実現を見ることができました。趣旨がよいからやるべきだという結論をもつことと、多くの事務を処理しつつ実現にもっていくこととの間の距離は、決して短くはありませんでした。多数の学生を扱うこと、多くの講義を準備すること、寝食の世話をすること、輸送の便宜を考えること等々、全体の統一と脈絡が首尾よくいくかどうかは、やってみるまで模索と不安の連続だったといえます。

しかし、自画自賛のようですが、やってみて総じて万事よかったと思っています。欲をいえば、ああもこうもとまだ多くの不十分さを感じます。対象大学、授業時間、時期、講義の内容と組合せ、宿室編成など改善すべき点がないとはいえません。けれども最初の試みとしては、一応満足すべき成果がえられたと考えます。何よりの成果は、参加学生が大変よろこび、満足し、参加により開眼したことです。「教養部砂漠」のなかのアオシスみたいなのが、この共同授業でした。共同授業を繰り返し拡大することによってその意義効果をひろげるというのではなくて、共同授業を経験することによって日常不断の大学教養部のあり方によき示唆と反省の資がえられたということがよかったと思います。このことは、この報告書の「4.共同授業プログラムの評価と反省」の各項をみていただくとわかります。

この報告書作成にお骨折り下さった方々に感謝申上げるとともに、この報告書が後のために活用されることを念願しています。

1977年4月

九州大学教養部長　奥　田　八　二